

要点録

会議名	令和7年度(2025年度)第2回八王子市文化芸術振興評議会	
日時	令和7年(2025年)6月23日(月) 午後6時30分～8時40分	
場所	学園都市センター 12階 第5セミナー室	
出席者	評議員	垣内座長、川崎副座長、村松評議員、甘麻評議員、山本評議員、船江評議員、香川評議員、庄田評議員
	事務局	真辺市民活動推進部長、南部学園都市文化課長、榎津主査、高橋主事
欠席者	酒百評議員、中島評議員	
議題	<p>(1) 「第2期八王子市文化芸術ビジョン」策定概要</p> <p>ア 「第1期八王子市文化芸術ビジョン」の取組実績</p> <p>イ 策定方針</p> <p>ウ 策定スケジュール</p> <p>(2) アンケートについて</p> <p>ア 第2期八王子市文化芸術ビジョン策定に向けたアンケートへの意見と反映内容について</p> <p>イ アンケートの速報値の共有</p> <p>(3) 八王子市の文化芸術振興における課題について</p>	
公開・非公開の別	公開	
傍聴人の数	-	
オブザーバー	1名	
配付資料	<p>〔配付資料〕</p> <p>次第</p> <p>資料 1-1 八王子市文化芸術振興評議会開催要綱</p> <p>資料 1-2 八王子市文化芸術振興条例</p> <p>資料 1-3 第1期八王子市文化芸術ビジョン</p> <p>資料 2-1 第1期八王子市文化芸術ビジョン 取組実績</p> <p>資料 2-2 第2期八王子市文化芸術ビジョンの概要</p> <p>資料 2-3 第2期八王子市文化芸術ビジョン策定 年間スケジュール</p> <p>資料 3-1 第2期八王子市文化芸術ビジョン策定に向けたアンケートへの意見と反映内容 について</p> <p>資料 3-2 アンケート設問内容(最終版)</p> <p>資料 3-3 アンケート結果(速報値)</p> <p>資料 4 5つの方向性ごとの課題</p>	

<p>議題（１）「第２期八王子市文化芸術ビジョン」策定概要 ア「第１期八王子市文化芸術ビジョン」の取組実績 イ 策定方針 ウ 策定スケジュール</p>	
事務局	<p>資料 1-1、資料 1-2 を基に、文化芸術振興評議会の概要について説明した。</p> <p>【意見や質問なし】</p>
事務局	<p>議題（１）について、資料 2-1 から資料 2-3 に沿って説明した。</p>
評議員	<p>「第２期八王子市文化芸術ビジョン（以下「ビジョン」という。）」では、新たに「ひろげる」という方向性追加する予定との説明があった。</p> <p>新たに追加する方向性「ひろげる」は、国が進めている文化芸術と経済の好循環に資する考え方である。実現はなかなか難しいが、市場で文化芸術に経済的な価値を上げるということだけではなく、様々な形で社会にインパクトを与える、あるいは社会的な価値を与えるというところも、「ひろげる」の中に含まれてくるのではないかと思う。</p>
評議員	<p>文化芸術の振興に向け、経済界を動かしていく必要性や余地はまだあると考える。その観点から第２期ビジョンの方針を尊重する。</p> <p>未来に向けて「そだてる」取り組みにおいて、劇場に子どもたちが出向いて非常にすぐれた芸術を見る機会を多く持つことは重要。学校教育の中での出前講座のような形もきっかけとしてはよいが、やはり劇場で鑑賞することは大きな影響をもたらす。そうした機会を増やすことで取り組みにさらに厚みが出てくるのではないか。</p>
評議員	<p>学校における体験や、劇場という非日常の中での経験は、将来を担う世代への働きかけとしては非常に重要である。演じるアーティストの方にはいろいろな経験、機会を提供するということが当然であるが、費用の面など、考慮すべき課題も多くあるので、ビジョンに盛り込むにあたっては、現実の問題と折り合いをつけなければならない場面も出てくるだろう。</p>
評議員	<p>西川古柳座の皆さんが、小学校に出向いて実演するアウトリーチでは、人形を自分で動かす機会を設けている。そうした体験を経て、地元の八王子車人形を守っていこうという思想が芽生えるものと思う。体験の機会を創出することが大事である。（公財）八王子市学園都市文化ふれあい財団（以下「財団」という。）が行う「トイトイオーケストラ」でも、参加した子供たちが指揮者や場内アナウンスなどの体験をする機会を設けている。子どもたちにとって、体験が今後の財産になると思うが、一方で実施にあたっては予算の問題もあり、なかなか難しい部分もある。</p> <p>奥能登の地震復興フォーラムで、生命の安全が確保された後に生きる力を与えてくれたと感じたのは、地域に伝わる伝統芸能をみんなで演じたことだったという話を聞いた。文化芸術は、人と人とを繋いで広がり、経済界や地域の団体など</p>

	を巻き込み、地域を豊かにし、地域や生命を守る原動力になるので、新たなビジョンに「ひろげる」を追加するのは、よいと思う。
評議員	<p>阪神淡路大震災においても、発災直後は生活物資が必要だったが、1～2か月が経過すると音楽や演劇など心に豊かさをもたらす文化芸術が必要とされ、劇場や美術館の建設につながったと聞く。「ひろげる」は、様々な意味でとらえていただくと良いと思う。</p> <p>【第2期ビジョンに「ひろげる」を加えることについて、評議員は概ね賛同ということを確認】</p>
<p>議題 (2) アンケートについて</p> <p>ア 第2期八王子市文化芸術ビジョン策定に向けたアンケートへの意見と反映内容について</p> <p>イ アンケートの速報値の共有</p> <p>(3) 八王子市の文化芸術振興における課題について</p>	
事務局	議題(2)、(3)について、資料 3-1 から資料 3-3 及び資料 4 により説明した。
評議員	LINEアンケート等について、母数はどの程度なのか。
事務局	LINEアンケートの母数は、八王子市の LINE 登録者数の約 30,000 である。
評議員	第1期と比較し、若干文化芸術への関心が低くなったように見える。若年層の影響か。
オブザーバー	ワークショップの機会が減少しているのも影響しているのではないかと。西川古柳座は、幼稚園だけで、年間 50 件程度のワークショップを行っている。幼少期から体験することで関心の基礎を築くことになる。
評議員	実体験が関心の基礎を築くというご意見は、これまでの議論とつながる話であり、文化芸術への関心を高めていくための手法として必要であると感じる。事務局は整理してビジョンに盛り込む必要があるかと思う。
評議員	<p>文化芸術への関心の低下というよりは、若者たちの文化が TikTok など、従来の文化とかけ離れたものとなっているとともに、伝統文化への関心が低下しているということではないだろうか。例えば、現在の高齢者は演歌よりもサザンオールスターズなどのポップスを聞くように、世代の構成員の変化に伴い、興味の対象が変化してきているように思う。文化芸術に触れる機会を増やす取組とともに、多様な企画が重要と思う。</p> <p>文化芸術に触れる機会を提供する相手方として、子供たちだけではなく、65 歳定年後のシニア世代も対象に考えるべきと思う。人生 100 年時代において、平均寿命までの 25 年間をいかに豊かに過ごしてもらおうかの選択肢の一つとして「文化芸術」があるのではないかと。若い世代はタイムパフォーマンスを重視する傾向にあるが、高齢者は時間にゆとりがあるという違いからもアプローチの仕方は異なるので、「そだてる」の対象が子ども一辺倒になってしまうのは適切ではないと考える。</p>

<p>評議員</p>	<p>時間の経過とともに、新たな価値として見出される取組や活動がある。例えば、30年前には書道パフォーマンスは存在しなかったし、かつて行われていた路上パフォーマンスも YouTube での配信になった。高尾山も大切に守り続けてこられたから、世界中から観光客が押し寄せるようになってきている。政策的に何をやる必要があるかをよく考えなければならない。</p> <p>経済界へのアプローチの手法について、商店街の商品のパッケージデザインを美術系大学の学生が行い、その成果が就職活動においてアピールできる材料になるなど、文化芸術を切り口としたマッチングといった形もあるのではないかと。ビジョンの方向性についてよいと思うが、このようなマッチング機能も組み込んでいく必要があるのではないかと。</p>
<p>評議員</p>	<p>第1期も第2期もアンケート調査の基本は、劇場等に出向いていくことについて質問している。数値は減少しているが、デジタルコンテンツにより、音楽や画像が常に身近にあり、また自ら発信する者も以前に比べて増えた。そのような状況のなか、劇場等へ出向くことを前提とするのは現状から少しずれているように感じる。</p> <p>内閣府の調査において、物の豊かさや心の豊かさのどちらを大切にすることを問う設問がある。調査結果は、これまで一貫して、物の豊かさよりも心の豊かさを大切にすると回答する人が多い結果であったところ、直近の調査での20～30代は、心の豊かさよりも物の豊かさを重視するという傾向が顕著になっている。このような変化が生じていることを考慮して、視聴するうえでの負担が低廉なデジタルコンテンツをどのようにとらえるのかをアンケート結果も踏まえて再考すべきと思う。</p> <p>資料の4「5つの方向性ごとの課題」の「そだてる」の担い手育成は、文化芸術活動を行う演者側だけでなく、活動を支援する側についても考える必要がある。必ずしも税金を投入して支援するだけでなく、市民によるボランティアなど、文化芸術を支援する人を育てることも必要と思う。「ひろげる」は、観光や経済などの地域活性化のみならず、福祉や教育の分野においても文化芸術がもたらす効果について考える必要があるのではないだろうか。</p>
<p>オブザーバー</p>	<p>市民の文化水準の底上げが必要と感じている。海外公演に行くと各国の文化の違いにより、物事の捉え方が全く異なることを感じさせられる。文化芸術に価値を見出すことのできる意識やその啓発が必要と思う。</p>
<p>評議員</p>	<p>ここまで皆様から出ていた意見については、全部大切と思う。自分自身、年齢を重ねていき、焦らなくなったと感じる。また、色々なことに対し、上手くなることだけでなく、楽しむことを重要視するようになった。よく市民センターなどで、色々なイベントが開催されているが、あのような「ちょっと体験する」みたいな、入りやすい入口があることが大切だと感じる。</p> <p>八王子市民文化祭で中学生絵画展を主催しているが、美術の専門の先生が配属されていない中学校もあるなど、学校の環境も変化している。そうしたなかでも、子どもたちに文化芸術に触れやすい状況を作っていくのは大事と思う。また、文化芸術団体も、学校などから声をかけられたら、そこへ参加できるような体制を整えておくことも大切だと考える。</p>

評議員	<p>子どもだけでなく、シニア世代も文化芸術に「出会う」ことが大切であり、それが生涯学習につながっていく。色々なところで文化芸術に出会えるような環境を作っていくことが重要であると思う。</p>
評議員	<p>資料4の「ささえる」の課題に活動の場の不足が挙げられている。学園都市センター11階ギャラリーホールで、書道部の展示会を行うが、展示を見に来ることを目的にしている通りすがりの方に来場してもらうのは困難である。一方、日の出町や日野市の市役所等での作品展示や書道パフォーマンスは、後日、作品を見た方からのコメントが寄せられることがあり、また、高尾山の清滝駅前でも書道パフォーマンスを披露すると、子どもから地域の方、外国人の方まで多彩な方に見ていただける。通りすがりのように誰でも見られる身近なところで文化芸術に触れる機会を創出することが、次世代の育成や情報発信につながるのではないかと思う。たまたま書道パフォーマンスを見たことが、書道部への入部のきっかけになることもある。</p>
評議員	<p>やはり文化芸術は参加してみる大切と感じる。以前、南大沢で2日間にわたってワークショップを実施したときは、とても参加者から好評だった。そのような、体験できる場を市からも提供してもらえるとありがたい。</p>
評議員	<p>学校等へのアウトリーチ事業は、時間の制限があるため、参加している生徒全員が体験できるものではなく、体験できなかった子は興味が薄れる。一方、事前申し込みが必要な参加型のイベントも億劫でなかなか申し込みに至らないので、いつでも体験できるような参加型のイベントが身近にあると体験機会の創出につながるのではないか。食のイベントなどは体験型のものが多くある。</p>
評議員	<p>カルチャーセンターで篠笛講座を開講しているが、受講生に私のイベントを告知すると100%来てくれる。イベントの周知には習い事の場も活用すると効果的と思う。子ども向けのイベントについては、情報が行き届いていないように感じる。親の文化芸術への関心を高めることによって、子どもの参加機会も増え、関心を高めることができると思う。</p> <p>初めて体験する方が理解を深められるようアプローチを工夫することで、人が集まりやすくなるのではないか。また、舞台に立つ側にも工夫が必要と感じる。小学生450人に獅子舞のワークショップを行った際に、体験できない子は無関心になってしまう事態を防ごうと、太鼓の代わりに全員揃って膝を叩いてみるなどの工夫をした結果、「いつも代表の子しかできないから、自分たちが体験できてうれしかった」と大好評であった。また、獅子舞を演じていたのが女性だったことから女子児童から、「自分もやっていいんだ」といった意見が出るなど、つながるきっかけは千差万別と感じるとともに、種まきはできたと手ごたえも感じた。</p> <p>多摩市にあるキャラクターをモチーフにしたテーマパークは、かつて赤字が続きながらも経営を継続してきた理由は、幼少期の楽しい思い出からグッズを継続的に購入する長期的なファンになってくれるからと聞いたことがある。一過性のイベントで結果を判断するのではなく、10年後など長期的な効果も見据えて取り組むことが大事と思う。</p>

評議員	<p>府中市のけやき通りでは、プレイベントを年間通して開催するなど、つねに音楽体験ができる場になっている。そこに行けばいつでも体験できるといった長期的な視点でのイベント開催が大事。</p> <p>現在は廃止されているが「まつりーと」という祭りの主催者側と参加希望者をつなぐマッチングサイトがあった。需要と供給を気軽につなぐしくみがあると活動が広がっていくと思う。</p>
評議員	<p>文化芸術に触れる、イベントに参加するための情報を入手しやすくなるしかけが必要と感じる。市の広報や公式 LINE もあるが、居住地の近隣でのイベントなどの開催情報に簡単にアクセスできる方法があると参加機会が増えると思う。</p>
評議員	<p>学校へのアウトリーチ事業は、授業時間数が限られる中で、金融教育やドラッグ教育など様々なメニューがあり、新たに参入するのは困難な状況がある。</p> <p>いつでも来街者のある状態にないと、ホテル建設等の投資が行われない。まちづくりの中に文化芸術を織り込むことで、継続的に来街者を促すことも必要と思う。</p>
評議員	<p>宮崎県の高千穂は、毎日神楽を上演しており、観光収入だけで賄っている。公的支援なしで自立できる強力なコンテンツは貴重である。</p> <p>学校は、働き方改革とともに教育メニューが満載で、すでに満杯状況なので、学校に新たに依頼することはかなり難しい。一方、学校で文化芸術事業を行うと、事前学習、体験、振り返り学習を必ず行うので、多角的でクオリティの高い機会になる。</p> <p>【これまでの議論を踏まえて、「5つの方向性ごとの課題」について概ねコンセンサスが得られたことを確認】</p>
議題 3 その他	
事務局	<p>会議の要点録はまとめ次第、内容確認を依頼する予定。</p> <p>確認後、名前を伏せた形で公開する。</p>
会議終了	